

like minds



話す聴く感じる、
生きやすさを手に入れる

まちカフェ！
参加イベント

オープンダイアログは
地域に何をもちたらか？



木原育子
東京新聞記者



斎藤環
精神科医
ODNJP共同代表

12月8日（日）15：30から18：00まで
（受付15:00開始）

場所 原町田 勝楽寺誕生殿地下ホール

募集人数 100名

参加費 2,000円

参加費は事前に銀行振り込みで
お支払ください

振込先は、申し込みの際に
お知らせいたします

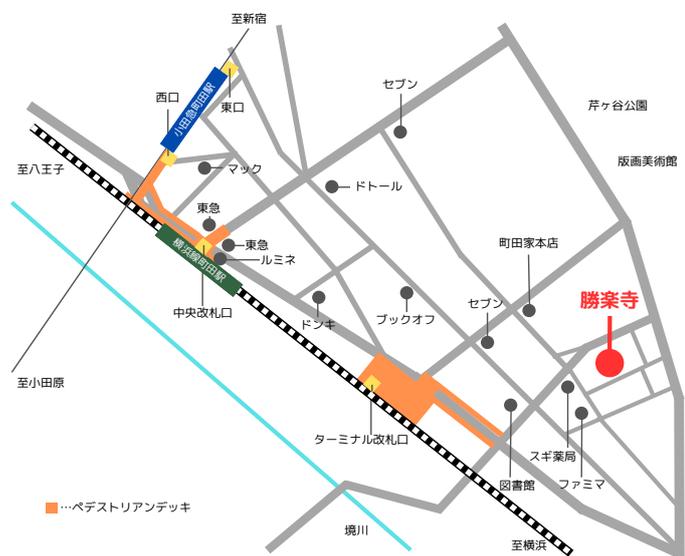
キャンセルの場合返金はせず
生活困窮者支援の活動資金と

させていただきます
ご了承ください

お問合せ、お申し込みは、

info.machida.likeminds@gmail.com

044-989-3745 岩淵まで



登壇者略歴

齋藤環（さいとう・たまき）

1961年、岩手県生まれ。

1990年、筑波大学医学専門学群 環境生態学卒業。医学博士。

爽風会佐々木病院精神科診療部長（1987年より勤務）を経て、2013年より2024年まで筑波大学医学医療系社会精神保健学教授。

2024年から筑波大学名誉教授。

日本思春期学会理事、日本病跡学会理事。

2021年より公益社団法人青少年健康センター会長。専門は思春期・青年期の精神病理、精神療法、および病跡学。

著書に「文脈病」（青土社）

「社会的ひきこもり」（PHP研究所）

「ひきこもり文化論」（紀伊國屋書店）

「生き延びるためのラカン」（ちくま文庫）

「ひきこもりはなぜ『治る』のか？」（中央法規出版）

「世界が土曜の夜の夢なら」（角川書店）

「ひきこもりのライフプラン」

（畠中雅子との共著）岩波書店

「オープンダイアログとは何か」

（医学書院）など。

訳書にヤーコ・セイックラ他著

「開かれた対話と未来」（医学書院）がある。

『関係の化学としての文学』（新潮社）で、2010年度の日本病跡学会賞を受賞。

『世界が土曜の夜の夢なら ヤンキーと精神分析』（角川書店）で2013年に第11回角川財団学芸賞。

『心を病んだらいけないの？

うつ病社会の処方箋』（新潮選書）で2020年に第19回小林秀雄賞を受賞。

木原育子（きはら・いくこ）

愛知県出身

名古屋大学大学院修了後、2007年に中日新聞社に入社。2015年から東京社会部で警視庁クラブや都庁記者クラブ、戦取材班を担当し、2020年から特別報道部。

2021年に日本社会事業大学通信教育科社会福祉士養成課程、2022年に同精神保健福祉士課程を卒業。現在は精神医療や司法福祉、児童養護など福祉に関わる社会課題を中心に取材中。

アイヌ民族を巡る差別問題では、2023年のメディアアンビシャス大賞を受賞。

社会福祉士と精神保健福祉士の資格を取得し、東京新聞特報面で企画連載「社会福祉士⇔新聞記者」を掲載している。

共著に「精神病院・認知症の間に9人のジャーナリストが迫る」（ぶどう社）、ノンフィクション「服罪—無期懲役判決を受けたある男の記録—」（論創社）など。

主催 町田 like minds

岩渕貴子

岩渕一之

宮木孝幸

学生おうえん隊

梶有沙

田邊竜晴

遠藤七海

まちカフェ！
参加イベント